

## 第 39 回西洋社会科学古典資料講習会 講師紹介

10 月 30 日 (水)

書誌学 (I) 「西洋貴重書の目録作成 (1) タイトルページの転記」

書誌学 (II) 「西洋貴重書の目録作成 (2) 形態の記述」



高野 彰 (たかの あきら) 氏

元跡見学園女子大学文学部教授。専門は書誌学、印刷史、図書館史。著書に『洋書の話』第 2 版, 朗文堂 (2014 年)、『英語本の扉』朗文堂 (2012 年)、『帝国大学図書館成立の研究』ゆまに書房 (2006 年) など。パピルス紙の制作や活版印刷にも取り組む。

書誌学 (III) 「NACSIS-CAT 形式の目録作成実習 (仮)」

堀越 香織 (ほりこし かおり) 氏

一橋大学学術・図書部学術情報課古典資料係長。2018 年 8 月より現職として附属図書館の貴重書に係る業務及び社会科学古典資料センターの各種業務を兼務。

10 月 31 日 (木)

保存・管理 (I) 「文化財 IPM による図書資料の保存の進め方 ～生物被害からいかに守るか～」



吉川 博幸 (よしかわ ひろゆき) 氏 (左)

井上 桃子 (いのうえ ももこ) 氏 (右)

吉川氏は株式会社明治クリックス代表取締役社長、井上氏は同社文化財 IPM 事業部係長。文化財 IPM (Integrated Pest Management) の考え方を軸とし、各地の大学図書館・美術館等を対象に、カビ・ムシ対策を中心とした文化財保存のコンサルティングから環境調査、燻蒸処理までトータルサポートしている。

展示論・生涯学習論 「西洋貴重書の展示方法、生涯学習への活用」



馬場 幸栄 (ばば ゆきえ) 氏

一橋大学社会科学古典資料センター助教。専門は書物史、文化資源学、比較文化。慶應義塾大学 HUMI プロジェクトや国立民族学博物館等で文化財のデジタルアーカイブ研究に従事。大学で書物史・書誌学・博物館学の講義を担当するかたわら、子どもから大人まで楽しめる羽根ペン教室を開催して西洋貴重書の教育普及に努める。

保存・管理 (II) 「館所蔵資料の保存方針組立の提案と事例」



伊藤 美樹 (いとう みき) 氏

株式会社資料保存器材で書籍の修復を担当。翻訳を手掛けたアルテミス・ボナデア著『館内で本を修理する』(2009 年, 原著 Alaska State Library 1995 年) は同社のブログ「スタッフのチカラ」からダウンロードできる。

## 書物史「西洋古典資料のもつ歴史的個性を見抜く（仮）」



武者小路 信和（むしゃこうじ のぶかず）氏

元大東文化大学文学部准教授。専門は図書館・情報学、「モノ」としての書物の研究（書誌学、ブックデザイン）。論文に「J. M. Keynes と書誌学」『経済資料研究』（no. 33 ; 2003）、「John Maynard Keynes と The Baskerville Club」『教育学研究紀要（大東文化大学）』（no. 2 ; 2011）など。

11月1日（金）

## 古典研究（I）「19世紀フランス社会思想の一展開」

福島 知己（ふくしま ともみ）氏

一橋大学社会科学古典資料センター専門助手を経て、現在、帝京大学経済学部専任講師。専門は社会思想史。翻訳書にシャルル・フーリエ著『愛の新世界』増補新版，作品社（2013年）、論文に「シャルル・フーリエによる経済学 豊饒の経済学と例外の理論」『思想』1008（2008）、「極窮の図書館 福田徳三の大学図書館観」『一橋大学附属図書館研究開発室年報』4（2016）など。

## 古典研究（II）「『メディチ家帳簿』から読み解く中世イタリア商人の商業技術」



鴨野 洋一郎（かもの よういちろう）氏

関東学院大学経済学部准教授。専門は地中海商業史、中近世イタリア経済史。論文に「フランチェスコ・ディ・ジュリアーノ・デ・メディチの駐在員帳簿」『一橋大学社会科学古典資料センター年報』39（2017）、「もう1つのメディチ家」と毛織物工業、そしてオスマン帝国」『経済系』271（2017）など。